

国、都県、自治体による連携・協働型災害廃棄物処理計画策定事業（進捗状況報告）

◆ モデル事業の概要

- 災害廃棄物対応は都県や市町村等の自治体が連携することが重要であり、平時から調整・協議して対応を検討しておくことが必要である。
- そのため、本事業では、モデル市町村と都県・国が対話形式によって災害廃棄物処理計画を策定するスタイルの事業を実施。

◆ モデル市町村

- 群馬県8市町村：渋川市、みどり市、邑楽町、大泉町、玉村町、千代田町、明和町、上野村
- 千葉県6市町：大網白里市、山武市、東金市、八街市、芝山町、横芝光町
- 新潟県6市：糸魚川市、胎内市、燕市、十日町市、見附市、村上市

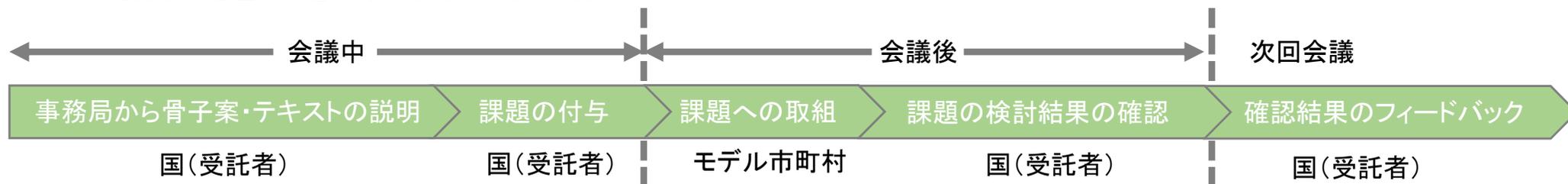
◆ 使用した主な資料

- 災害廃棄物処理計画**骨子案**・・・廃棄物処理の基本的な考え方を示すものであり、最低限盛り込むべき事項としてまとめたもの
- 災害廃棄物処理計画策定のための**テキスト**・・・本モデル事業を進める上での参考図書

（※本事業は令和元年度から実施しており、骨子案・テキストは令和元年度に発生した災害で得られた教訓も踏まえて改定）

◆ モデル事業の進め方

- **関係者会議**：「災害廃棄物処理計画**骨子案**」（60頁程度）と「災害廃棄物処理計画策定のための**テキスト**」（200頁程度）を用いて国（受託者）から災害廃棄物対応に関する説明を行った上で、モデル市町村に対して課題を付与し、会議後にモデル市町村が課題に取り組み、その取組結果を国（受託者）が確認して処理計画を策定する方法で進めた。



- **簡易な机上演習**：災害時において頻繁に課題となる事項を参加者へ投げかけ、どのような対応を取るかを考え、グループで議論する形式で実施。
- **意見交換会**：庁内関係部局の理解を得て災害時に迅速に連携して災害廃棄物へ対応できるよう、災害廃棄物処理に関する意見交換会を開催
- **情報交換会**：モデル市町村間で課題や悩みを共有し、お互いが持つ知見を共有することで、更なる取組加速を目的として開催。

国、都県、自治体による連携・協働型災害廃棄物処理計画策定事業(進捗状況報告)

◆ 今年度の特徴(昨年度からの改善点)

- 市町村が躓くことが多い「**災害廃棄物の発生量の推計**」については、**穴埋め形式の問題**を事務局から提示して、会議中に**モデル市町村が自ら手を動かして推計作業**を実施。推計に用いるデータを事務局で準備。推計後は答え合わせを実施。令和元年度は、発生量推計に苦慮する自治体が多かったことから、令和2年度は第1回関係者会議の中で推計作業を行うことにした。
- 令和元年度よりもプログラムの進行を早め、意見交換会に注力できるよう年内に第3回関係者会議まで終了。
- 群馬県では、関係者会議の開催場所を自治体の持ち回りで開催したことで、開催自治体では担当課長も会議に出席できた。

第1回関係者会議(千葉県)
穴埋め形式の問題に取り組むモデル市町村職員の様子



机上演習(群馬県)の様子



◆ 事業の進捗状況 受け身のスタイルではなく、自ら考え、自ら手を動かして処理計画を策定していくスタイル

- 災害廃棄物処理計画の骨子案は概ね完成。
- 庁内関係部局との連携に向けて日程等の調整を行っていたが、1月に出された緊急事態宣言の影響により、第4回関係者会議、意見交換会、情報交換会については年度繰り越して4月以降に対面形式で開催予定。